



東京浅草中央ロータリークラブ 週報

〒111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1 浅草ビューホテル 2階
TEL. 03-3847-1111 FAX. 03-3847-0154 URL: http://www.asachu-rc.jp

2012 - 2013 年度テーマ

R.I. テーマ 「奉仕を通じて 平和を」 R.I. 会長 田中 作次
地区ガバナー 石川 正一
クラブテーマ 「クラブライフの充実で、ロータリーの魅力を語ろう!」
クラブ会長 原田 毅

本日の卓話

「最近の労使紛争とその未然防止について」
特定社会保険労務士 社労士法人ゼネラル・プレインズ代表 伊藤孝仁 様

今後の卓話予定

9/12 「ロータリアンだからこそ出来る新世代奉仕」
地区新世代委員長 茂木正光 様
9/19 夜間例会・ショートスピーチ 永井会員夫人
9/26 「台東区にある博物館について」 天笠会員令嬢 天笠咲子 様



2012年 9月 5日

第 1283 回例会

会長 原田 毅
幹事 宮村 義男



9月お誕生日祝

藤田 喜太郎 君 (78才) 小林 博君 (57才)
上野 雅宏 君 (55才) 小林 雅純 君 (65才)
原田 毅 君 (65才)

前回 (8/29 1282 回例会) の記録

来訪者紹介

◆ゲスト 6名
2580地区 2012-2013年度 ガバナー 石川正一 様
2580地区 2012-2013年度 北分区ガバナー補佐 高木義雄 様
2580地区 2012-2013年度 地区幹事 新里順一 様
2580地区 2012-2013年度 地区副幹事 斎藤彰悟 様
2580地区 2012-2013年度 北分区幹事 岡 秀一 様
2580地区 2012-2013年度 北分区副幹事 鈴木憲興 様
◆ビジター 2名
東京浅草R.C. 湧井壮吉 様、東京江東R.C. 大澤栄一 様

出席報告

総会員数	休会	出席免除	出席	欠席	出席率	修正出席率
46名	1名	4名	40名	3名	93.02%	1280 回例会修正 欠席4名・出席率 90.91%

東日本大震災で被災された皆様に一日も早い平和と復興がおとずれますようにお祈り申し上げます。このような時こそ、我々ロータリアンは『五大奉仕』を実行・実践しましょう。明日の日本と世界はみんなの手の中に！



ガバナー公式訪問

会長報告 <原田会長>

・本日は、2012年～13年度ガバナー公式訪問クラブ協議会という事で、6名のご来賓にご出席頂きました。沖縄から石川正一ガバナー、北分区より高木義雄ガバナー補佐、また沖縄より新里順一地区幹事、そして我

[<次頁に続く>](#)

がクラブ所属の斎藤彰悟地区副幹事、同じく北分区より岡 秀一分区幹事、鈴木憲興

分区副幹事の皆様です。後ほど、石川ガバナーの卓話を楽しみにさせていただきます。

幹事報告<宮村幹事>

- ・9月5日例会終了後クラブ事務所にて第3回理事・役員会を開催致します。関係者各位の出席をお願い致します。
- ・本日高木ガバナー補佐、岡分区幹事、鈴木分区副幹事を迎え東京浅草中央ロータリークラブ2012～13年度のクラブ協議会を開催致しました。終了後石川ガバナー、

- 新里地区幹事を交え、会長・幹事打ち合わせを行いました。例会卓話は公式訪問の石川ガバナーより頂戴しました。会員各位の下無事に開催出来ました、感謝いたします。
- ・会員名簿を作成中ですが、住所、電話番号、メール番号等変更のある方は幹事まで連絡下さい。

委員会報告

<親睦活動委員会 高木委員長>

- ・「親睦活動についてのアンケート」をお配りいたしました。今後の親睦活動に活かしたいと思います。アンケートのご提出は次回例会時、9月5日に高木までお願いいたします。

<米山・ロータリー財団委員会 田村委員長>

- ・米山・ロータリー財団積立金の集金を9月

5日の例会に行いますのでご協力の程、宜しくお願い致します。

<胴長おじさんの会 中村幹事>

- ・「胴長おじさんの会」で学費援助をしていた、立命館大学大分国際校に留学していた、カンボジアのティエロ君が10月に卒業し、(株)タイカに就職が内定しました。皆様のご協力に感謝申し上げます。上京時にスピーチを予定しております。

ニコニコボックス

<第2580地区ガバナー 石川正一様>

- ・東京浅草中央R.C.の会員の皆様のご健勝と、クラブの益々のご発展を心よりご祈念申し上げます。頑張ろう。会員増強！

<東京江東R.C. 大澤栄一様>

- ・東京江東ロータリークラブから来ました。岩田会員と同じ事務所にいます。

<原田会長、宮村幹事>

- ・石川ガバナーはじめ、地区及び分区の役員の皆様のご来訪を歓迎いたします。

<関原、山尾、太田、天笠、渡辺、松崎、海内、吉田、古谷、大塚、植木、藤掛>

- ・地区ガバナー 石川正一様、地区ガバナー補佐 高木義雄様、地区幹事 新里順一様、地区副幹事 斎藤彰悟様、北分区幹事 岡秀一様、北分区副幹事 鈴木憲興様ようこそいらっしゃいました。本日、どうぞよろしくお願いいたします。

<山尾、松崎、小池、浜中、小林(雅)、岩戸、藤田>

- ・地区ガバナー 石川正一様、本日の卓話

宜しくお願い致します。

<立野、松崎>

- ・残暑お見舞い 申し上げます。くれぐれもご自愛下さい。

<太田、松崎、海内、中村>

- ・東日本大震災
頑張ろう 東日本！
立ち上がれ 日本！

<岩田>

- ・同じ事務所で、最近江東R.C.に入会された大澤栄一さんをお連れしました。今後もメーカーでよろしくお願い致します。

<職業奉仕委員会>

- ・皆様の職業やその考え方を中心に原稿をいただいた「私の職業Ⅲ」が無事に刊行できました。会員各位のご協力に感謝。刊行に当たり岩戸会員にお世話になりました。ありがとうございます。

<天笠>

- ・長沼様、先日の巨人戦楽しかったです。マジックの出た日でした。ありがとうございます。



2580地区2012-2013年度ガバナー

石川 正 一 様

那覇西RCの石川でございます。

東京浅草中央RCの公式訪問に当たりまして、卓話をする機会をいただき、光栄に存じます。私は、1983年に那覇西RCに入会し、皆出席で29年目を迎えました。クラブ幹事、クラブ会長を務め、2004-2005年度には、2580地区の地区幹事をやらせていただきました。2010年の6月に、若者を中心に新クラブを創ろうと特別代表になり、先輩方のご支援のもとに27名でスタートし、現在30名で楽しく運営しております。

ロータリーは、1905年、アメリカのシカゴでポール・ハリスがスタートさせました。今では、世界200の国と地域で、120万人以上のロータリアンを有しています。日本では、1920年に東京RCが創立され、855番目のクラブとして承認されました。1941年12月8日に開戦した第2次世界大戦を目前にした1940年に、ロータリーから脱退しています。終戦後の1949年に東京RCは復活しました。日本のロータリークラブは、高度成長期に拡大し、1996年6月末で、ロータリアンは12万9千人、クラブ数は2,214となっています。

しかし、2012年5月末現在では、約8万9千人で、クラブ数は2,292となっています。クラブ数は、1996年から78クラブ増えましたが、ロータリアンは4万人くらい減少しています。16年間の減少傾向は、1年あたり、ほぼ2,500人づつ減少したことになります。日本には34の地区がありますが、一つの地区のロータリアンの平均はおよそ2600人で、2500人以下の地区は18地区あります。言い換えれば、平均的なロータリアンを有する地区が、16年間ひとつずつ減り続けていることになります。

ビジネスでもそうですが、お客様が減ってしまえばビジネスが成功しているとは云えません。ロータリアンも原点に戻り、「真のロータリーの価値は何であるか」を、ひとり一人がしっかり認識していかなければいけないと思います。

日本も世界も、時代は確実に変化しており、「我が国も変革期を迎えている」と云われています。ロータリーも少しずつ、時代にマッチするように変化をする必要があります。必ずしも経済環境が悪いことが減少の原因ではないと考えます。

ポール・ハリスは、田舎から都会のシカゴに出てきて、仕事上の友人は出来るが、真の親友が出来ない。そこで、同じような悩みを持つものがあるのではないかと、

相互扶助と親睦を第一の目的としてロータリーを作ったと言っています。ポール・ハリスは、その時のシカゴを「都会砂漠の広いシカゴの町」と表現しました。ポール・ハリスは、1933年にボストンの世界大会のスピーチの後に質問された「なぜロータリアンは例会を楽しむことができるのか」の答えに「ロータリーは形式主義を脱ぎ捨てて、自然の態度で集まりを持っているので、楽しい集まりを続けることができる」と話しています。

当時のロータリークラブは、地域の成功した人がメンバーになっており、お互いに肩書きを外して話し合えば、親しい人間関係が出来ると考えました。

そのように考えると、初期のロータリーは、マズローの「欲望のピラミッド」の上層階の人が多かったのではないかと思います。人間の欲望は、一番下は生理的な欲求、2番目は安全の欲求、3番目は所属と愛の欲求、4番目は自尊の欲求、5番目は自己実現の欲求と5段階にわけられます。下の段階の「人間らしく生きたい」という欲望から始まり、自分自身を磨いていき、「自分らしく生きる」ということを達成し、次に人生目標も達成し、社会をよくするという使命感を発揮するのは、自己実現の欲望を持った人達です。

ロータリーの本質を考える時、「ロータリーの心と原点」を出版された廣畑富雄さんは、ロータリーの本質を“ESS”で表すことが出来ると言っておられます。Eはエンジョイ=楽しむ、Sはスタディ=自己研鑽、Sはサービス=奉仕と説明しています。

成功した人達に共通していることは、普通の人5倍も10倍もの人的ネットワークを持っています。人的ネットワークを作るということは、100名の人に会って一定の時間を費やしても、生涯の親友となるのは、ひとりかふたりくらいしか出来ないとされています。ロータリーの一番のメリットは、人的ネットワーク作りです。ロータリーが、友情を大事にするというだけの団体であれば今日のように発展していなかったし、奉仕と親睦が表裏一体となった活動であったからこそ発展したと言われています。

カルヤン・バネルジーさんは、ガバナーエレクト研修会のスピーチで、トーマス・エジソンの言葉を引用しました。“天才は1%のひらめきと、99%の努力である”をあげられました。しかし、私は、アルベルト・アインシュタインの言葉のほうがもっと好きだとおっしゃいました。アインシュタインは、成功者をAと定義すると、 $A = X + Y + Z$ という方程式がなりたつと言うことです。Xは仕事、Yは遊びであり、ロータリーの理念とよく似ているというような話をされました。「Zは口を閉ざすこと」とおっしゃいましたが、ロータリーとの関係の説明はありませんでした。

私は、「企業も成功するためには、秘密が無ければいけない。」と言われてますので、「成功した人も、成功した秘訣をもっているのだろう」と思いました。人生で成功した人はいいい先輩に巡り会えたから、という話をよく聞きます。お互いの親睦が深まると、心を開き、先輩の成功した秘訣を聞くことが出来ると思えば、ロータリーの価値はさらに高くなります。

本田宗一郎さんは、本を読むより人の話を聞くのが好きだと、「私の履歴書」に書いておられます。本は500ページ読んでも「なるほど」と思うことは、1

ページしかないから、と言っておられます。松下幸之助さんも、私は学歴がないから本を読むより、人の話を聞く事が好きだ、知識を得るには、人の話を聞いて勉強するのが一番よいと言っておられます。

次にロータリーの目指す「奉仕活動」について話します。

RI会長の田中作次さんは、奉仕を“分かち合いの心”と“思いやりの心”という2つの表現をしています。“分かち合いの心”とは、自分の欲望も少々我慢して、分かち合って生きる心を育てることで、自分の人間性の向上にも繋がつとっています。“思いやりの心”とは、支援を必要としている人達の為に奉仕の機会を模索し、積極的に支援してあげようということです。奉仕は自らの時間でやるか、物でやるか、金でやるかですが、人生に与えられた自分の時間そのものや、キャリア、リソース等を若い人達に分け与えるという奉仕も大切であります。若い人達に入会してもらって、若い人達のエネルギーと時代にマッチしたアイデアを取り入れて、地域と密着した奉仕活動をすることにより、ロータリーの公共イメージも高まると思います。

高校生を対象にした青少年交換プログラムは、20カ国余の国々の高校生を1年間派遣しあう制度で、日本では34地区で150名余の学生が20カ国余の国へ研修に行きます。また、日本にもほぼ同数の高校生が留学しています。このプログラムは高校生らしい順応性を発揮し、国際性を身につけ、大きな成長をみることが出来ます。

ロータリー米山奨学事業は、日本国内で勉学に励む大学生や大学院生を支援する日本ロータリーの将学事業であります。1952年から始まり、今までに約1万6000名余の学生を60年間の長期に渡って支援しています。

インターアクトは12歳から18歳まで、ローターアクトは18歳から30歳までの若者によりよき未来を確実なものとするため、将来の準備をさせることを使命と考えるRIの常設プログラムです。しかし、第2580地区の現状は、決して好調とは言えません。第2580地区においては、ローターアクトは33クラブが提唱したにもかかわらず、25クラブが解散しており、インターアクトは26クラブが提唱したにもかかわらず、15クラブが解散しました。このような状況は、若い人にロータリーの悪いイメージを与えるのではないかと心配いたしております。

新世代奉仕が5大奉仕になったことを契機に、将来の日本を担う若者の支援が出来ないかと思っています。

ロータリークラブは、だれかが紹介しなければ会員になれません。世界で良いことをしているロータリーの真実を語れるロータリアンを目指していきましょう。ロータリーを楽しみ、ロータリーの真の価値を認識することが第一の目標であります。勇気をもって一人でも多くの方に声を掛けて会員増強をはかりましょう。会員増強は、原田会長を先頭に歴代の先輩方のご協力を得ながら、全会員の積極的な努力がなければ達成することはできません。